

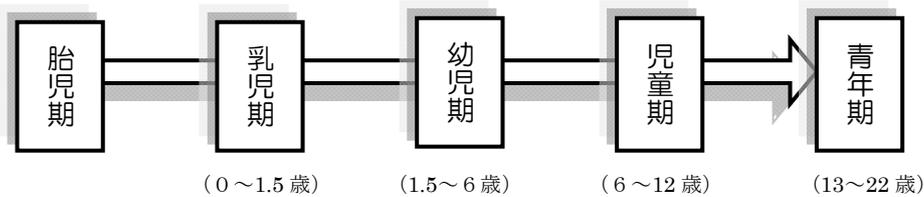
## 第4章



# 子どもの発達段階と家庭教育の課題

### 子どもの発達段階ステージ

子どもの発達段階を理解し、各段階に応じた家庭教育学級の開催をこころがけましょう。



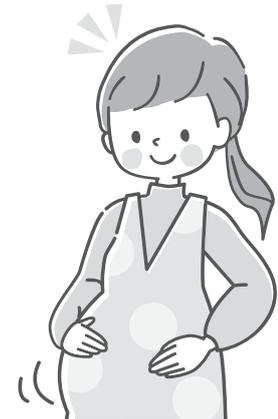
※参考 E.H.エリクソンの発達理論



### 胎児期 (生まれる前)

#### <発達段階> 健康な胎内環境による心身の基礎構築

- ・ 視覚器官、聴覚器官が形成される
- ・ 感覚器官の発達によって、周りの言葉や感情に反応する  
(なでられたり優しく話しかけられたりすることに対する安心感、母親の怒りや哀しみを感じて生じる不安感)



<家庭教育で大切にしたいこと>【保護者】  
新しい命の誕生を喜び、子育ての情報を得て、イメージづくりをする

- ☆母体の健康保持に心がける
  - ・ 休息、睡眠、栄養、適度な運動
  - ・ 母親の情緒安定
- ☆子育てのイメージを具体的にもつ
  - ・ 家族での家事や育児の協力、分担についての話し合い
  - ・ 子育てに必要な知識の習得

<家庭教育学級への支援で大切にしたいこと>【担当者】

- ☆親になる喜びを伝える
  - ・ 母親の心の安定
  - ・ 親になる誇りと責任の自覚
- ☆親になる準備（心構え）内容を伝える
  - ・ 胎児の発達の様子や特徴
  - ・ 家族の協力の重要性
  - ・ 一人で悩まない(相談機関紹介)



乳児期・幼児前期  
(0～3歳)



＜発達段階＞安心できる親子関係の構築

- 無条件に自分を愛し保護する存在として親を信頼する
- 周囲への好奇心が芽生える
- 少しずつ母親から離れ他者とかわる
- 基本的生活習慣の基礎が身に付く

＜家庭教育で大切にしたいこと＞【保護者】

家族のふれあいを通して、愛情に支えられた豊かな人間性・社会性の基盤を育む

☆0歳～1歳くらいまでは、赤ちゃんの望んだことはすべてかなえてあげる、という気持ちで育てる

- 親の温かいまなざし
- 温かい言葉かけ
- 十分なスキンシップ

☆身の回りのことを子ども自身がやり遂げることができる実感を体得させる

- 生活リズム、早寝早起き、食生活
- トイレトレーニング

☆親としての自覚をもつ

- 親の生き方や接し方が子どもの将来を左右することを理解する
- 「ありがとう」「ごめんなさい」を親(保護者)が言える
- 父親母親など周りの大人が協力して育児に取り組む

＜家庭教育学級への支援で大切にしたいこと＞【担当者】

☆居心地の良さを提供する

- 「来てくれてありがとう」という気持ちで参加者に接する

☆参加者の「自分の子育てをちょっとよくしたい」という思いを受け止める

- 担当者からの言葉かけや情報提供を大切にする

☆親子で参加して「よかった」「楽しかった」という思いを味わってもらう

- 保護者同士のつながり(仲間づくり)を支援するための交流の場を設定する



## 幼児後期 (4～6歳)

### <発達段階> 自発性の芽生え

- ・ 集団遊びができるようになり、対人関係能力や秩序感覚を身に付け始める
- ・ 善悪の判断基準が形成され始めるとともに、良心が芽生える
- ・ 対人関係が保てるようになり他者への思いやりをもつことができる
- ・ 自然や生き物に興味をもつ
- ・ 身の回りのことが自分ででき始め、基本的な生活習慣が身に付く

### <家庭教育で大切にしたいこと> 【保護者】

遊びや生活の中で、ほめたり認めたりしながら、社会性の獲得を手助けする

☆社会性を身に付けさせるための基本的なしつけをする

- ・ 社会のルール、家庭のルール
- ・ 善悪の基準、あいさつ、我慢、お手伝い



☆やる気を育てる

- ・ 親が手本を示す
- ・ 一緒にやってみる
- ・ 笑顔でほめる、認める

☆子どもの自発性をのばす

- ・ 「自分でする」習慣を身に付けさせる
- ・ 子どもの話を十分に聞く

### <家庭教育学級への支援で大切にしたいこと> 【担当者】

☆参加者を不安にさせない

- ・ 発達の個人差について理解し、心に余裕をもつ大切さを伝える

☆参加者を孤立させない

- ・ 子育てサロンなどで保護者同士の交流を促し、思いを共有する

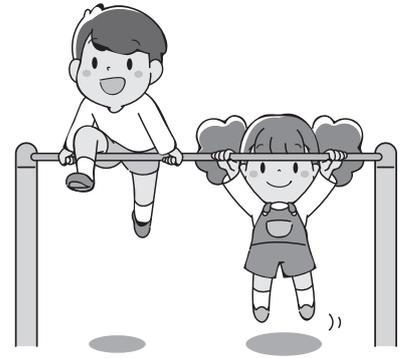
☆特に6歳児（年長児）については、小学校での生活を意識した学習内容を工夫する



## 児童前期 (7～9歳)

### <発達段階> 自律心の芽生え

- ・ 集団の中で役割を決めて遊ぶことができる
- ・ 他者に共感し、我慢や分けあい、交代などができる
- ・ 善悪の判断や規範意識の基礎ができる
- ・ 身辺自立ができる
- ・ 自然や生命を慈しむことができる



### <家庭教育で大切にしたいこと> 【保護者】

様々な活動をとおして、知・徳・体のバランスの取れたしつけを行う

☆積極的に運動や学習に取り組めるよう、生活リズムを整える

- ・ 早寝早起き朝ごはん
- ・ 家庭学習習慣確立のための声かけ、見届け

☆規範意識を育てる大切な時期であることを自覚する

- ・ 様々な体験や活動に挑戦させ、認める、ほめる、方向を示す
- ・ その時々親の感情によって子どもへの対応を変えない
- ・ 親の行動をとおしてよりよいお手本を示す
- ・ あいさつ、お手伝いなど、親子で小さな実践を積み重ねる

☆子ども同士のトラブルに冷静に対応する

- ・ いつでも相談できる学校との関係づくりを心がける
- ・ 親の判断で子どもの人間関係をコントロールしない

### <家庭教育学級への支援で大切にしたいこと> 【担当者】

☆学校や地域での子どもの様子(現状)を踏まえ、学習テーマを設定する

- ・ 親が学ぶ(「学びたいこと」と「学ぶべきこと」のバランス)
- ・ 親子で学ぶ
- ・ 親子のふれあい

☆参加者を孤立させない

- ・ 子育てサロンの活用
- ・ 学習形態や広報活動の工夫



## 児童後期 (10～12歳)

### <発達段階> 他者意識の芽生え

- ・ 他者との関係の中で自分のことを考えたり、他者への接し方を考えたりするようになる
- ・ 他者との関係の中で善悪の判断がつく
- ・ 自分の感情や欲求を抑えることができる
- ・トラブルを解決しようとすることができる
- ・ 失敗から学ぶことができる
- ・ 集団の中で自分の役割を意識し、責任を果たそうとする
- ・ 生き物の世話をする



### <家庭教育で大切にしたいこと> 【保護者】

一方的な要求や叱責ではなく、子どもとの対話を大切にして、子どもが他者との関係の中で自分の存在を認められるように支援する

#### ☆子どもと仲間の育ちあいを支える

- ・ 子どもの人間関係を把握する
- ・ 金銭や物を与えすぎない
- ・ 地域行事や体験活動に、子どもとともに積極的に参加する
- ・ 子どもが失敗したり悩んだりしている時は、よき相談相手となる

#### ☆子どもの自己有用感（自分が必要とされていると感じる気持ち）を育てる

- ・ 家族の一員としての役割をもたせることで「自分は家族の中でなくてはならない大切な存在である」と感じさせる
- ・ 学習やお手伝いなどさまざまな経験を積ませることで「自分は自分なりにやっつけられる力がある」と感じさせる

### <家庭教育学級への支援で大切にしたいこと> 【担当者】

☆児童期から青年期への心と体の発達過程について理解しやすい学習内容を設定する

☆親世代が経験したことでは対応しきれない問題について課題を提案し、学びにつなげる

☆子どもの問題が、それまでの家庭教育に起因することもあるということを参加者が理解し、親としての姿勢や家庭のあり方を謙虚に見つめ直して今後の家庭教育に粘り強く取り組めるよう、ともに問題解決に向かう姿勢を示す



青年前期  
(13～15歳)

＜発達段階＞ 自分らしさの気づき

- ・ 自意識過剰で感受性が強くなり、情緒不安定になりやすい
- ・ 他者との関係の中で自他の違いを認め、自分の特性に気づく
- ・ 自分のよさを実感したり、自分の短所を自覚したりする
- ・ 仲間関係が強くなり、特定の友人との深い人間関係を築く
- ・ 異性との望ましい関係を学びはじめる
- ・ 自他の生命の重さが理解できる
- ・ 人間の弱さを理解し、思いやり、共感、感謝、批判、悲しみ等が言葉にできる
- ・ 社会の一員として自立した生活を営む力を身に付ける
- ・ 公共を意識して自分の行動を抑制できる
- ・ 法やきまりの意義を理解し、公德心をもつ
- ・ 困難に対処することができる

＜家庭教育で大切にしたいこと＞【保護者】

大人の世界に踏み出すために悩み葛藤する子どもにとって、家庭が精神的安らぎの場となるよう、子どもを温かく見守るとともに、適宜助言する

☆子どもを一人の人格として認め、接する

- ・ 思春期の心と体について理解する
- ・ 性や生命について子どもに語る
- ・ 夫婦が互いに尊敬しあう

☆自己肯定感（自分のことが好き、自分は生きている価値があると思う気持ち）を育てる

- ・ 「自分は大切な存在である」と実感できる機会をつくる
- ・ 他者との比較でなく、子どもの長所をほめる

☆将来の夢や自己実現に向けて働きかける

- ・ 点数や成績だけではなく、適性と対話で進路に助言する



＜家庭教育学級への支援で大切にしたいこと＞【担当者】

☆親世代が経験したことでは対応しきれない問題について課題を提案し、学びにつなげる

☆中学生だからこそ大切にしたい家庭教育について学習内容を設定し、親子関係を深められるよう支援する



青年中期  
(16～18歳)

＜発達段階＞自分の個性への誇り

- ・ 思春期の混乱から脱却し、大人の社会を展望しながら生きる課題を真剣に模索しはじめる
- ・ 親から心理的に離れ、自分を客観的に見つめ、自立する（親離れ）
- ・ 家族や周囲との関係の中で自分のあり方を決める
- ・ 自分らしさを見据えながら、将来を描き始める
- ・ 社会人となることや親となることをイメージしはじめる

＜家庭教育で大切にしたいこと＞【保護者】

子どもを一個人として信じ見守るとともに、人としての生き方を語り合いながら社会人としての自立を支援する

☆自立に向けて助言する

- ・ 子どもに願う生き方を伝える
- ・ 子どもの考えを受け止めながら語り合う
- ・ 父として、母としての生き方を語る

☆自立した一個人として接する

- ・ 子どもを信頼する
- ・ 子どものよいところを言葉で伝えるなど、愛情を伝え続ける



「子どもの発達段階と家庭教育の課題」参考文献

- ・ 文部科学省「各発達段階における子どもの成育をめぐる課題等について（参考メモ）」  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/053/shiryo/attach/1285897.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/053/shiryo/attach/1285897.htm)
- ・ 文部科学省「子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題」  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/053/shiryo/attach/1282789.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/053/shiryo/attach/1282789.htm)
- ・ 文部科学省「子どもの生活リズム向上ハンドブック」
- ・ 『自我同一性』 E.H.エリクソン（誠信書房）1973
- ・ 『子どもへのまなざし』 佐々木正美（福音館書店）1998